

きりん

V.G 槻輪だより

会報第37号
発行日 平成19年10月31日
発行・編集 V・G 槻輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin

歴史の散歩道・上牧地区

わがまち紹介

上牧地区

に大きなソテツの木があります。

上牧という地名は、「上の牧場」つまり天皇の放牧地だったことから来ていて、この辺り一体が天皇や京都の公家のための領地だったようです。



上牧地区は淀川上流から流ってきた土砂で高台になり、「神南備の森」と言われば木が生い茂つた森が有つたようです。この跡は桜原3丁目の「こすもす児童公園」辺りだそうだが、現在は説明板を残すのみ。

本澄寺 三好達治記念館

文明3年（1471）の

「神南備」とは、「神の宿る所」の意味で、この神南備が自然に「上牧」になつたとも言われています。

以前の祖師堂は、宝蔵と拝殿に別れていたが、今は

一体になつています。

春日神社（上牧）

天井・側壁まで絵画が描

かれた宝殿の中には、元龜元年（1570）、上牧法華村の住人富松兼重（のち牧兼重に改姓）が、織田信長に従つて出陣した際、若狭国小浜にて日蓮自作と伝えられる日蓮聖人像を感得

当寺に持ち帰った「除厄日蓮聖人」を安置してあり、「厄除けの高祖」と呼ばれて信仰を集めています。

境内には、15世紀以来上牧・鶴殿一帯の莊園領主で



あつた鳥丸家の領界石や、昭和の詩人・三好達治の、記念館や墓があります。

三好達治は、明治33年（1900）に大阪で生まれ、萩原朔太郎に師事、「測量船」や「一点鐘」等の清新

な詩集を出して活躍した。

記念館には自筆の原稿や写真、著書、愛用の品々などが保存・展示されている。

本澄寺の住職は、三好達治の甥にあたり、沖縄のこ

とを研究され日本の平和

の事を真剣に考えておら

れます。（ご）住職には長時

間にわたるお話を有難うございました。）

享和2年（1802）の年月は不詳であるが、旧には、古歌にも詠まれた

「神南備（かむなび）の森」に鎮座していたが、春日神社に合祀されている。

広い境内には、榎や樟など

の古木が生い茂り優れた

景観を有している。

れたといわれる。

洪水で記録が流出し、創建の年月は不詳であるが、旧

上牧・鶴殿・井尻各村の鎮守として信仰が厚かつた。

神南備神社は、大正4年には、古歌にも詠まれた

「神南備（かむなび）の森」に鎮座していたが、春日神

社に合祀されている。

広い境内には、榎や樟など

の古木が生い茂り優れた

景観を有している。

ところが、燃料はプロパン等に利用されていた。

に、屋根（わらぶきヨシぶ

き）は瓦にとつて代わられ、

わざわざヨシを刈り取つて利用するという風習は

なくなつた。

しかし、そのヨシ原に雜草が増えつづけるようになつたため「ヨシ焼き」が実施されるようになつた。

（昭和27年頃）つまり昔から

の伝統行事ではないと

いうことになる。

「ヨシ焼き」が行なわれなくなつた。

しかし、そのヨシ原に雜草が増えつづけるようになつたため「ヨシ焼き」が実施されるようになつた。